

Title	テレビ批判に関する基礎研究：BPOやインターネット上に投稿された意見の内容分析
Sub Title	
Author	齋藤, 誠子(Saitō, Nobuko)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2018
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.86 (2018. ) ,p.96- 98
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2017年度博士課程研究支援プログラム研究成果報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000086-0096">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000086-0096</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## テレビ批判に関する基礎研究： BPOやインターネット上に投稿された意見の内容分析

齋藤誠子

平成29年度、「テレビ批判に関する基礎研究：BPOやインターネット上に投稿された意見の内容分析」という主題のもとに研究を行った。本報告書では、テレビ批判の心理的メカニズムを理解するための内容分析と質問紙調査の結果について説明する。内容分析ではさまざまな媒体に寄せられるテレビ批判の類型を調べ、その結果に基づきテレビ批判態度尺度を作成した。そしてその尺度を利用し、質問紙調査を行った。質問紙調査においては、テレビ批判を「テレビのニュース報道への批判」に絞り、その心理的メカニズムについて統計的な分析を行った。

### 1. 内容分析とテレビ批判態度尺度の作成

**内容分析の目的** 質問紙調査を行うに際して、現状のテレビ批判の傾向や特徴を把握するために実施した。視聴者のテレビに対する意見が集まる以下媒体を対象に、KJ法やテキストマイニングを用いて内容分析を行った。

#### 対象媒体と結果

##### 1) BPOのウェブサイト（齋藤，2016）

報道内容に関する批判がもっとも多い。また、「テレビは公平であるべきだ」「下品な内容はやめるべきだ」など、テレビに対する勧告・是正を求めるような意見が多い。BPOという機関の性質を考慮すれば当然であると考えられる。

##### 2) Twitter（齋藤，2017）

「この情報間違っていない?」「このドラマ面白くない」など、テレビに対する“つつこみ”のような批判意見が多い。BPOのような是正を求めるような内容ではない。“www”や絵文字が多用され、「遊戯的批判」が表出されやすい。

##### 3) インターネット掲示板

Twitterと同様に、“つつこみ”や疑似的批判が多い。さらに特徴的な意見として、芸能人のキャラクター設定や容姿に関する批判や、ドラマと原作（漫画・小説など）の違いに対する批判がよく見られた。

**テレビ批判態度尺度** 上記の内容分析によって得られたテレビ批判の類型を、「テレビ批判態度について尋ねる項目」として調査票に反映した。調査票の内容は、「あるニュースに関して一面的にしか報じなかったり、対立する意見の一方しか取り上げない」「タレントが、別のタレントの頭を思い切り叩く」「ドラマのストーリーの辻褄が合わない」など全58問である。これらの場面に対して批判を抱くかどうか「1.抱かない～5.抱く」の5件法で尋ねた。

**結果** 因子分析を行い、テレビ批判態度を4つに分類した。

#### ・ドラマへの批判態度

「出演している俳優・女優がドラマの雰囲気合っていない」「ドラマに出演している俳優・女優の演技

が下手だ」「ドラマの演出が甘いように思える」など。

・危険・下品描写への批判態度

「どっきり企画でタレントにラーメンや熱湯をかける」「罰ゲームと称してタレントに暴力をふるい、笑いや者にする」「出演者同士が性的な話題で盛り上がる」など。

・報道への批判態度

「テレビ局の報道クルーのヘリコプターの騒音によって、周辺住民が迷惑を被っている」「あるニュースに関して一面的にしか報じなかったり、対立する意見の一方しか取り上げない」「出来事の当事者となる人物を執拗に追いかけ、無理やりインタビューしようとする」など。

・犯罪助長・過激表現への批判態度

「殺人事件に使われた有害物質を紹介する」「ドラマ内で登場人物の体を刃物で刺すシーンがある」「誘拐事件について、加害者が被害者をどのように洗脳したかなど手口を詳細に再現する」など。

## 2. 仮説の検証

**仮説** 内容分析をふまえて、以下の理論において指摘されてきた心理的メカニズムがテレビ批判と関連すると仮説を立てた。

・第三者効果：自分はメディアの影響を受けないが第三者は受けると考え、それに対応した行動を取る（Davison, 1983）。

・敵対的メディア認知：メディアが自分と反対側の陣営にとって有利な方向に歪んでいると認知する傾向（Vallone, 1985）。

・テレビが社会的、道徳的な秩序を脅かすと感じる（モラル・パニックのような感覚）。

モラル・パニック…社会的・道徳的な秩序が特定の集団によって脅かされており、それに対して『何かがなされるべきだ』と多くの人々が考えるようになる状態（Goode & Ben-Yehuda, 1994）。

**質問紙構成** [a] テレビのニュース報道に対する批判態度。「出来事の当事者を執拗に追いかけ、無理やりインタビューしようとする」「ある企業の不祥事を報じるなど、偏った報じ方をする」「あるニュースに関して一面的にしか報じなかったり、対立する意見の一方しか取り上げない」「報道クルーのヘリコプターの騒音によって周辺住民が迷惑を被っている」「災害時に救助を待っている人を撮影する報道ヘリコプターが、救助ヘリコプターを邪魔している」の5項目。このようなテレビ場面に対して批判を抱くかどうか、「1. 抱かない～4. 抱く」の4件法で尋ねた。[b] 「虚偽報道の影響を受ける」「真偽がわからない情報に振り回される」「犯罪の手口を詳細に報じるニュースを見て、模倣する」の3項目。対自分と他者に分け、それぞれがどれくらい影響を受ける可能性があると思うか、「4. 多いに可能性があると思う～1. まったく可能性がないと思う」の4件法で尋ねた。[c] 敵対的メディア認知傾向。ニューストピック35項目に対して、「自分の意見」と「テレビでの報じ方」は対立していると思うか、5件法で尋ねた。[d] テレビの道徳性の認知＝テレビが社会的・道徳的な秩序を脅かすという認識。「テレビが伝えていることは事実ではないことも多いと思う」「テレビが青少年の非行や暴力行為を助長するのではないかと、危機感を覚える」の2項目（4件法）。[e] 他者に対する保護欲求。「困っている人に自分の持ち物を与えることは当然のことである」「自分より悪い境遇の人に何かを与えるのは当然のことである」など16項目（4件法）。第三者効果の規定因と予想し、統制変数として設定した。

**結果** 仮説の検証のため、「テレビのニュース報道に対する批判態度」を従属変数（ $\alpha=.86$ ）、①テレビ

表1 テレビのニュース報道に対する批判態度に関する重回帰分析結果

従属変数: テレビのニュース報道に対する批判態度	標準化偏回帰係数 ( $\beta$ )
テレビのニュース報道に対する第三者効果傾向	.12**
敵対的メディア認知傾向	.08
テレビの道徳性の認知	.29***
保護欲	.25***
$R^2$	.22***

$N=420$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

のニュース報道に対する第三者効果傾向（他者に対する認識－自己に対する認識の差分を第三者効果傾向とした）、②敵対的メディア認知傾向（ $\alpha=.96$ ）、③テレビの道徳性の認知（ $r = .27, p<.01$ ）、④他者に対する保護欲求（ $\alpha=.90$ ）を独立変数とする重回帰分析を行った（表1）。分析の結果、「テレビのニュース報道に対する第三者効果」「テレビの道徳性の認知」「保護欲求」の傾向が高いほど、テレビのニュース・報道に対する批判態度の標準偏回帰係数（ $\beta$ ）が有意であった。一方で、「敵対的メディア認知」傾向の標準偏回帰係数は有意ではなかった。

まとめ 分析によって、「テレビのニュース報道に対する第三者効果」「テレビの道徳性の認知」「保護欲求」の傾向が高いほど、テレビのニュース報道を批判するということが明らかになった。本研究の仮説「テレビのニュース報道への批判を説明する変数として、①第三者効果、②敵対的メディア認知、③テレビの道徳性の認知が考えられる」については、大方支持することができたといえよう。今後は、有意な結果が得られなかった敵対的メディア認知との関連について、改めて検討する必要がある。

#### 文献

- Davison, W. P. (1983). The third-person effect in communication. *Public Opinion Quarterly*, 47, pp. 1-15.
- Erich Goode and Nachman Ben-Yehuda (2009). *Moral panics: the social construction of deviance* Malden: Wiley-Blackwell
- 齋藤誠子 (2016). 日本のテレビ番組に対する批判の類型：BPOに寄せられた視聴者意見の分析 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 (82), pp. 75-92.
- 齋藤誠子 (2017). Twitterにはどのような「テレビ批判」が投稿されるのか：媒体によって異なる規範意識 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 (84), pp. 35-51.
- Vallone, R. P., Ross, L., & Lepper, M. R. (1985). The hostile media phenomenon: Biased perception and perceptions of media bias in coverage of the Beirut Massacre. *Journal of Personality and Social Psychology*, 49, pp. 577-585.